

海水から飲み水を

逆浸透膜のイノベーションに挑んだ企業の歴史

世界的な水不足を解決する有望技術として注目される逆浸透膜の開発。

それは、1950年代にカリフォルニアの水不足に対応して始まり、1960年代にはケネディ政権の重要政策として推進された。その後、デュポンなど米国企業を追いかける形で日本も開発競争に参加し、長く市場が立ち上がらない中でも、東レ、日東電工、東洋紡の3社は辛抱強いイノベーション活動を続けてきた。

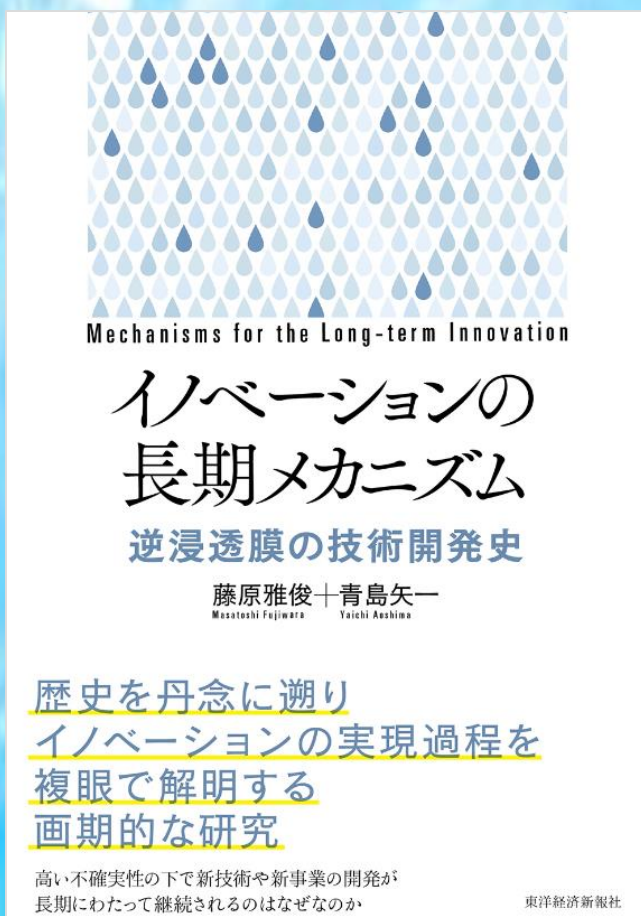
その開発の歴史を通じて、あらためて、長期にわたる持続的なイノベーションを可能にする条件を考えます。

ブックトーカー



青島 矢一

一橋大学経営管理研究科教授
イノベーション研究センター長



紹介する著書

イノベーションの 長期メカニズム 逆浸透膜の技術開発史

藤原雅俊 + 青島矢一 著

東洋経済新報社
2019.9

第60回 毎日新聞社
エコノミスト賞受賞

2020年12月9日(水) 17:15~18:45 (受付開始17:00)
オンライン開催! (参加費無料/事前申込制)

- | | |
|------|---|
| 開催方法 | Zoomミーティング (ライブ配信) |
| 定員 | 50名 (先着順/学外の方も申込み可) |
| 申込方法 | QRコードまたは下記URLよりお申し込みください
https://hrs.ad.hit-u.ac.jp/v33/entries/add/350 |
| 申込締切 | 2020年12月7日(月) 9:00
定員に達した場合、上記を待たずに締め切る場合があります |

- | | |
|-------|--|
| お問合せ先 | 一橋大学附属図書館 ブックトーク担当
mail: lib-yomocca@ad.hit-u.ac.jp |
| 主催 | 一橋大学附属図書館 |

